

付 9 労働力調査の 2022 年における変更点



労働力調査の 2022 年における変更点は以下のものが挙げられる。

- 1 調査票に関する変更
- 2 ベンチマーク人口の基準切替え
- 3 時系列接続用数値の作成
- 4 季節調整値の算出方法に関する変更

それぞれの具体的な内容については以下のとおりである。

1 調査票に関する変更

調査票について以下のとおり変更した。

時期	変更後	変更前
2022年 7月	特定調査票 第2面 設問の回答欄から「平成」を削除 	

2 ベンチマーク人口の基準切替え

労働力調査では、毎月の結果を算出するための基礎となる人口（ベンチマーク人口）として推計人口を用いている。基本集計では 2022 年 1 月分結果から、詳細集計では 2022 年 1～3 月期平均結果から、このベンチマーク人口について、最新の 2020 年国勢調査を基準とする推計人口へと切り替えた。

3 時系列接続用数値の作成

ベンチマーク人口の基準切替えに伴い、2015 年 10 月から 2021 年 12 月までの期間について、2020 年国勢調査基準のベンチマーク人口に基づいて遡及又は補正した時系列接続用数値を作成し、切替え以後の公表資料（結果の概要及び長期時系列データ）における当該期間を含む数値を時系列接続用数値に変更した。

詳細については、参考資料 1 「2020 年国勢調査基準ベンチマーク人口への切替えに伴う時系列接続用数値について」及び以下 URL を参照のこと。

[〈https://www.stat.go.jp/data/roudou/220201/index.html〉](https://www.stat.go.jp/data/roudou/220201/index.html)

4 季節調整値の算出方法に関する変更

労働力調査では、毎年 1 月分結果公表時に季節調整値の改定を行っている。

主要系列については、2013 年 1 月から reg-ARIMA モデルを導入しており、毎年の改定時に reg-ARIMA モデルを検証している。2022 年における改定では、reg-ARIMA モデルの一部変更を行った。

詳細については、参考資料 2 「労働力調査の季節調整法における reg-ARIMA モデルの一部変更等について（2022 年改定）」及び以下 URL を参照のこと。

[〈https://www.stat.go.jp/data/roudou/kisetsu/index.html〉](https://www.stat.go.jp/data/roudou/kisetsu/index.html)

2020年国勢調査基準ベンチマーク人口への切替えに伴う時系列接続用数値について

労働力調査の基本集計では2022年1月分結果（3月4日公表）から、詳細集計では2022年1～3月期平均結果（5月13日公表予定）から、結果算出に用いるベンチマーク人口について、最新の2020年国勢調査結果を基準とする推計人口への切替えを行います^{※1}。

これに伴い、切替え以後の公表資料における過去数値（比率を除く）を、2020年国勢調査基準（新基準）のベンチマーク人口に基づいて遡及又は補正した時系列接続用数値に変更します。時系列接続用数値の概要等については、以下のとおりです。

※1 労働力調査の結果の推定方法については、右記URLを御参照ください。<<https://www.stat.go.jp/data/roudou/pdf/10.pdf>>

1 時系列接続用数値の概要

(1) 基本集計（全国）

① 2020年9月～2021年12月

新基準のベンチマーク人口に基づいて遡及集計した数値^{※2}。当該期間に含まれる四半期平均及び年平均も同様に、遡及集計を行う。

② 2015年10月～2020年8月

①で求めた2020年9月の遡及集計値（新基準）と既公表値（旧基準）とのギャップ（新基準－旧基準）を、各月の既公表値（旧基準）の数値に均等配分した数値（補間補正值）。当該期間に含まれる年平均は、月次の補間補正值を平均して算出する。ただし、2020年平均は、2020年1月～8月の補間補正值と9月～12月の遡及値を用いて算出する。補間補正值算出方法の詳細は、以下を参照。

(2) 基本集計（地域別）及び詳細集計（全国）

① 2020年10～12月期～2021年10～12月期

新基準のベンチマーク人口に基づいて遡及集計した数値^{※2}。当該期間に含まれる年平均も同様に、遡及集計を行う。

② 2015年10～12月期～2020年7～9月期

①で求めた2020年10～12月期平均の遡及集計値（新基準）と既公表値（旧基準）とのギャップ（新基準－旧基準）を、各期の既公表値（旧基準）の数値に均等配分した数値（補間補正值）。当該期間に含まれる年平均は、四半期の補間補正值を平均して算出する。ただし、2020年平均は、2020年1～3月期～7～9月期の補間補正值と10月～12月期の遡及値を用いて算出する。補間補正值算出方法の詳細は、以下を参照。

※2 遡及集計した結果原表については、下記URLを御参照ください。
<<https://www.stat.go.jp/data/roudou/220201/index.html#ref01>>

2 補間補正值算出方法の詳細

(1) 基本集計（全国）

- ① 2020年9月分結果において、旧基準（既公表値）と新基準（遡及値）の差（ギャップ）を算出する。
- ② ①で算出したギャップ^{※1}を、以下の式(i)に基づき、2015年10月から2020年8月までの旧基準の数値に均等配分することで、月次の補間補正值を算出する。また、年平均については、月次の補間補正值を平均することで算出する。ただし、2020年平均の算出に用いる2020年9月から12月の月次の数値は、遡及集計による新基準の数値とする。

$$Y_{t,(\text{補間補正值})} = Y_{t,\text{旧基準}} + \frac{m}{60} \Delta Y \quad \dots\dots\dots (i)$$

Y : 結果原表の各セルの数値（就業者数など）
 ΔY : 2020年9月結果におけるギャップ（新基準－旧基準）
 m : 2015年10月をm=1, 2020年9月をm=60とする経過月数

※1 基本集計(全国)の主要項目における遡及値(新基準)と既公表値(旧基準)のギャップ(2020年9月分)

[万人]

	15歳以上人口	就業者	完全失業者	非労働力人口
遡及値(新)	11111	6722	211	4171
既公表値(旧)	11085	6689	210	4179
新-旧	+26	+33	+1	▲8

(2) 基本集計（地域別）及び詳細集計（全国）

- ① 2020年10～12月期平均結果において、旧基準（既公表値）と新基準（遡及値）の差（ギャップ）を算出する。
- ② ①で算出したギャップ^{※2}を、以下の式(ii)に基づき、2015年10～12月から2020年7～9月までの旧基準の数値に均等配分することで、四半期平均の補間補正值を算出する。また、年平均については、四半期の補間補正值を平均することで算出する。ただし、2020年平均の算出に用いる2020年10～12月期の数値は、遡及集計による新基準の数値とする。

$$Y_{t,(\text{補間補正值})} = Y_{t,\text{旧基準}} + \frac{q}{21} \Delta Y \quad \dots\dots\dots (ii)$$

Y : 結果原表の各セルの数値（就業者数など）
 ΔY : 2020年10～12月期平均結果におけるギャップ（新基準－旧基準）
 q : 2015年10～12月をq=1, 2020年10～12月をq=21とする経過期数

※2 詳細集計(全国)の主要項目における遡及値(新基準)と既公表値(旧基準)のギャップ(2020年10～12月期平均)

[万人]

	15歳以上人口	就業者	役員を除く 雇用者	失業者	非労働力人口
遡及値(新)	11086	6721	5676	220	4144
既公表値(旧)	11048	6679	5638	219	4150
新-旧	+38	+42	+38	+1	▲6

労働力調査の季節調整法における reg-ARIMA モデルの一部変更について（2022 年改定）

労働力調査では、毎年 1 月分結果公表時に季節調整値の改定を行っています。主要系列については、2013 年 1 月から reg-ARIMA モデルを導入しており、毎年の改定時に reg-ARIMA モデルを検証しています。

2022 年における季節調整値の改定（2022 年 3 月 4 日公表予定）では、主要系列の季節調整法における reg-ARIMA モデルの一部変更を行います。

労働力調査では、毎月、季節変動を除いた季節調整値^注を計算し、公表しています。この季節変動の除去は、原数値を季節指数（各月の季節変動のパターンを表す数値）で除すことにより行っています。そして、毎年 1 月分結果公表時には、直近の季節パターンを的確に反映させるため、過去の時系列データに前年 12 か月分のデータを追加し、最大で過去 29 年分のデータを用いた遡及計算を行い、当年に適用する推計季節指数を算出するとともに、直近の 10 年分の結果を改定しています。

注 1 季節調整値の詳細については、統計局ホームページ掲載の下記資料を御参照ください。

- ・季節調整値の算出方法 URL < <https://www.stat.go.jp/data/roudou/kisetsu/index.html> >
- ・労働力調査の結果を見る際のポイント
 - No. 4 原数値と季節調整値 URL < <https://www.stat.go.jp/data/roudou/pdf/point04.pdf> >
 - No. 7 季節調整値の改定 URL < <https://www.stat.go.jp/data/roudou/pdf/point07.pdf> >

注 2 2022 年 1 月分結果から、結果算出の基礎となるベンチマーク人口が 2020 年国勢調査基準（新基準）に切替わることに伴い、今回の改定では、新基準のベンチマーク人口に基づき遡及又は補正した時系列接続用数値を用いて季節調整値を算出します。

なお、ベンチマーク人口の切替え及びそれに伴う過去数値の変更については、以下 URL を御参照ください。

- ・2022 年 1 月分結果からのベンチマーク人口の切替え及びそれに伴う過去数値の変更について URL < https://www.stat.go.jp/data/roudou/220201/pdf/kirikae_ft.pdf >

2022 年における季節調整値の改定（2022 年 3 月 4 日公表予定）では、主要系列の季節調整法における reg-ARIMA モデルの一部変更を行います。

主要系列の季節調整法における reg-ARIMA モデルの一部変更

労働力調査では、季節調整値のうち主要系列について、2013 年 1 月分結果公表時から X-12-ARIMA における reg-ARIMA モデルを導入しています。毎年の改定時に、主要系列における reg-ARIMA モデルの見直しを行っています。

今回の見直しの結果、2022 年 1 月分結果から採用する reg-ARIMA モデルは、**別紙**のとおりとします。24 系列中 6 系列の ARIMA モデルを変更します。

表 2022年1月分から適用する reg-ARIMA モデル

		回帰変数 (種類・期間)	ARIMAモデル	旧モデル
労働力人口	男女計	LS2011.3 LS2020.4	<u>(211) (012)</u>	(012) (012)
	男	TL2020.4-2020.6	(012) (111)	
	女	LS2011.3 LS2020.4	(012) (012)	
就業者	男女計	LS2009.3 LS2011.3 LS2020.4	(111) (012)	
	男	LS2009.3 LS2020.4	(111) (012)	
	女	LS2009.3 LS2020.4	<u>(211) (012)</u>	(012) (012)
雇用者	男女計	LS2009.3 LS2011.3 LS2020.4	(111) (012)	
	男	LS2009.3 LS2020.4	(012) (111)	
	女	LS2009.3 LS2011.3 LS2020.4	<u>(012) (112)</u>	(012) (012)
正規の職員・従業員	男女計	-	<u>(012) (012)</u>	(210) (012)
	男	-	(012) (012)	
	女	-	(211) (211)	
非正規の職員・従業員	男女計	LS2020.4	(211) (111)	
	男	LS2020.4	(012) (111)	
	女	LS2020.4	<u>(211) (012)</u>	(010) (012)
完全失業者	男女計	RP2008.10-2009.7 RP2020.3-2020.10	(210) (011)	
	男	RP2008.10-2009.7 RP2020.3-2020.10	(210) (011)	
	女	RP2008.10-2009.3 RP2020.4-2020.8	(012) (011)	
非労働力人口	男女計	LS2011.3 LS2020.4	(012) (212)	
	男	TL2020.4-2020.6	<u>(012) (212)</u>	(012) (111)
	女	LS2011.3 LS2020.4	(012) (012)	
完全失業率	男女計	RP2008.10-2009.7 RP2020.3-2020.10	(210) (011)	
	男	RP2008.10-2009.7 RP2020.3-2020.10	(210) (011)	
	女	RP2008.10-2009.3 RP2020.4-2020.8	(012) (011)	

注) 下線は前年からの追加・変更箇所

- ・上表のモデルの選定には1992年11月から2021年10月まで(正規の職員・従業員及び非正規の職員・従業員は、2013年1月から2021年10月まで)の原数値(2020年国勢調査基準のベンチマーク人口に基づき、遡及又は補正した時系列接続用数値)を用いた。
- ・ARIMAモデルについては、階差次数・季節階差次数はそれぞれ1に固定し、他の次数は2以下の範囲内でAIC(赤池情報量基準)の最小となるモデルについて、各次数の統計的な有意性を確認した上で選定した。
- ・季節変動を算出する際の外れ値の管理限界は、 $9.8\sigma \sim 9.9\sigma$ としている。
- ・曜日・休日調整及び閏年調整は、行っていない。